

ノ乗タリケル船ニカ有ラムト思テ、奇異ガル事无限シ、漕ラム時ニハ、蜈蚣ノ手ノ様ニコソハ有
ラメ、世ニ珍キ物也ト云テ、館ニ持行タリケレバ、守モ此ヲ見テ極ク奇異ガリケリ、長ナル者ノ云
ケルハ、前々此ル小船寄ル時、有ナム云ケレバ、然レバ其ノ船ニ乗ル許ノ人ノ有ルニコソハ、此
ヨリ北ニ有ル世界ナルベシ、此ク越後ノ國ニ度々寄ケルハ、外ノ國ニハ此ル小船寄タリトモ不
聞エズ、此事ハ守京ニ上テ眷屬共ノ語リケルヲ聞繼テ、此ナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔倭名類聚抄十一〕船一。

釋名云、艇小而深者曰舩。〔中略〕字亦作舩、今案、和名太加世、世俗用高瀬舟。〕

〔箋注倭名類聚抄三〕所引文、原書不載、按方言云、艇、小而深者謂之樑、樑即舩字、見集韻、則此恐誤引

方言也、

〔類聚名義抄三〕舩音叩、小艇、舟、タカセフネ、

〔伊呂波字類抄太〕船タカセフネ、

〔運歩色葉集多〕舩タカセフネ、

〔倭訓栞前編十四〕たかせぶね 倭名抄に、舩をよめり、三代實錄に、高瀬舟と見えたり、平群郡龍田

川にも高瀬舟あり、たかせは、高背の義、舟の形をいふ也ともいへり、

〔書言字考節用集七〕舩タカセフネ、和俗所用、 高瀬舟和俗所用、

〔和漢三才圖會三十四〕舩タカセブネ、 俗用高瀬字、今舟形稍異、○中略

按、京河原流至伏見、呼曰高瀬川、其船長二丈餘、似艦而短、

〔和漢船用集五〕舟名數江湖川船タカセ 高瀬川所々にあり、山城或は河内攝津といへり、又安房上野に

あり、城州の高瀬舟、伏見より京師に入、則高瀬川也、艦高く舳横舳にして、ひきく平なる者也、備前

に有者此類也、又大井川桂川の舟は、其制各別なり、播州瀧野舟も高瀬舟にて、加古川、高砂にいた

る、其造異也、上州の高瀬舟、長十四五尋、幅一丈二三尺、高瀬舟、是より大なる者なし、すべて山川に